

學校要覽

令和5年度



福井県立藤島高等学校

福井市文京2丁目8番30号 (〒910-0017)

電話 0776-24-5171(代)

FAX 0776-24-5189

校 歌

作詞 熊谷 太三郎

作曲 下総 皖一

越の三川あつまりて 日本海をさすところ
清き泉の玉と湧く 福井のほとり地をしめて
いそしむわれら若人の 夢はるかなり白山連峰

ときはの森の足羽山 ふもとに眠る橋本が
新しき世を迎へむと 若き魂かたむけし
明道館の流れくむ 校風とはに光あり

庭にしたしむプラタナス 緑たけつつ年ふれば
戦火の跡の今いづこ 薨つらねて栄えゆく
郷土にわれらうち立てむ 祖国みちびく新精神

表紙	題字 (村上 規代)	表紙絵 (嶽野 貴代)
----	------------	-------------

目 次

校 歌	
1 沿革の概要	1
2 スクール・ポリシー	2
3 教職員数	5
教育課程	6
4 校内組織	8
(1) 校内分掌	8
(2) 各種会議等構成員	9
5 生徒	10
(1) 在籍生徒数	10
(2) 出身地区別生徒数	10
(3) 生徒通学状況	10
(4) 自宅・下宿別の通学者数	10
6 教 務	11
〈校 時 表〉	11
〈情 報〉	11
7 生徒支援	12
(1) 生徒会組織	12
(2) 部活動一覧	12
8 進路支援	13
(1) 模擬試験・オリエンテーション計画	13
(2) 最近の主な大学合格者数	13
9 保 健	14
(1) 保健活動	14
(2) 環境美化	14
(3) 防火・防災に関する事項	14
10 図書・研究	15
〈図 書 館〉	15
〈スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究組織図〉	16
11 庶 務	17
(1) P T A	17
(2) 厚生管理	17
(3) 新嶺会館	17
(4) 同窓会（明新会）	17
12 年間行事予定	18
13 校舎・施設配置図	20

1 沿革の概要

安政2年(1855)	福井藩校 明道館 を城内三ノ丸(現大手2丁目)に創設する。
明治2年(1869)	明新館 と改称し、城内御本丸に移転する。
明治6年	福井私立福井中学と改称する。
明治7年	福井明新中学 と改称する。
明治15年	福井県福井中学校 として発足する。
明治22年	福井県尋常中学校と改称し、女子部を併設する。
明治25年	女子部が独立し、 福井県高等女学校 として佐佳枝上町に開校する。
明治30年	福井県福井尋常中学校と改称する。
明治32年	福井県福井中学校と改称する。福井県高等女学校校舎を宝永町に移転する。
明治34年	福井県立福井中学校、福井県立福井高等女学校と改称する。
明治39年	「明新会」(同窓会)が発足する。
昭和5年(1930)	福井県立福井高等女学校校舎を和田村勝見(現御幸2丁目)に移転する。
昭和8年	福井県立福井中学校校舎が焼失する。
昭和11年	福井県立福井中学校校舎を 牧ノ島 (現在地)に移転する。
昭和20年	福井県立福井高等女学校校舎が戦災によって焼失する。
昭和23年	学制改革に伴い、福井県立福井中学校と福井県立福井高等女学校を統合して、 福井県立福井第一高等学校 として発足する。通信制課程を併設する。校章を制定する。福井地震によって校舎が倒壊する。
昭和24年	福井県立福井第一高等学校と福井県立福井第二高等学校工業課程を統合して、 福井県藤島高等学校 と改称する。加藤佐助が初代校長となる。
昭和26年	P T Aライブラリー(図書館)が竣工する。
昭和29年	水上豊が第2代校長となる。
昭和31年	創立100年祭を挙げる。校歌を制定し、「福井県藤島高等学校百年史」を発刊する。
昭和32年	福井県立藤島高等学校 と改称する。安藤健二が第3代校長となる。
昭和36年	工業課程が独立し、福井県立福井工業高等学校として山奥町に開校する。
昭和39年	本館(現1号館)が竣工する。片山一夫が第4代校長となる。
昭和41年	プールが竣工する。
昭和42年	体育館(現第1体育館)が竣工する。西島銀蔵が第5代校長となる。
昭和43年	新嶺会館が竣工する。
昭和44年	住居表示改正によって、福井市文京2丁目8番30号となる。
昭和46年	大森陽が第6代校長となる。
昭和47年	通信制課程が福井県立道守高等学校へ移管される。
昭和50年	中央校舎(現2号館)が竣工する。
昭和52年	3・4号館が完成し、全校舎竣工式を挙げる。小林郁夫が第7代校長となる。
昭和55年	西谷寿道が第8代校長となる。中庭の造園が完成する。
昭和56年	藤島・高志学校群選抜制度による初の高等学校入学者選択を実施する。
昭和58年	野阪忠善が第9代校長となる。
昭和60年	道下賢成が第10代校長となる。
昭和61年	第2体育館、武道場、弓道場が竣工する。
昭和62年	足利正臣が第11代校長となる。
昭和63年	図書館、体育館付属教棟が竣工する。
平成元年(1989)	東哲郎が第12代校長となる。創立130周年記念式典を挙げる、「百三十年史」を発刊する。
平成2年	西正門が改築される。
平成3年	竹村光雄が第13代校長となる。運動部部室が竣工する。
平成4年	1号館のリフレッシュ工事とともに、東門の改築およびカラー舗装工事を行う。
平成6年	森茂が第14代校長となる。
平成7年	齋藤實が第15代校長となる。第1体育館のリフレッシュ工事とともに、弓道場横に運動部部室6室を新築し、プールの全面改築を行う。
平成8年	グラウンドの全面改修工事を行い、併せてバックネット改修工事を行う。
平成10年	小川英雄が第16代校長となる。
平成11年	2号館のリフレッシュ・耐震補強工事を行う。
平成14年	和田周平が第17代校長となる。
平成16年	田中完一が第18代校長となる。
平成18年	長谷川義治が第19代校長となる。
平成20年	普通科の学区制が廃止され、同時に藤島・高志学校群選抜制度も解消される。
平成21年	吉田五衛が第20代校長となる。
平成22年	創立150周年記念会館「新嶺会館」が竣工する。創立150周年記念式典を挙げる、「創立百五十周年記念誌・写真集」を発刊する。
平成23年	赤澤孝が第21代校長となる。
平成24年	3・4号館のリフレッシュ・耐震補強工事を行う。
平成26年	太田和紀が第22代校長となる。
平成28年	1号館の耐震補強工事を行う。
令和2年	第1体育館の耐震補強工事を行う。
令和4年	小和田和義が第23代校長となる。
令和5年	堀康子が第24代校長となる。
	佐々木栄秀が第25代校長となる。
	田中幸治が第26代校長となる。
	松田透が第27代校長となる。
	松下晋也が第28代校長となる。
	山崎良成が第29代校長となる。

2 スクール・ポリシー

令和5年度 福井県立藤島高等学校スクール・ポリシー

スクール・ミッション【使命】

希望ある未来社会を切り開くため、社会の課題を自ら進んで見出し、粘り強く真理探究を推し進め、課題解決を図ることができる「研究力」と、様々な知識・経験を結びつけ、多様な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰的に捉えることのできる「厚みのある教養」とを併せ持ち、さらに未来社会での新たな価値を見出し、希望ある展望を他者と分かち合いながら意思決定や合意形成をリードしていくことのできる「創造力」を備えた人材の育成を目指す。

【教育信条】

- 1 真理と正義を愛する
- 2 自主と責任を重んずる
- 3 敬愛と協同を尊ぶ

グラデュエーション・ポリシー【育てたい生徒像】

豊かな教養と感性を備え、深く考え、未来社会をデザインする人間を育成する。

カリキュラム・ポリシー【特色ある教育課程】

【主体的な学び】

幅広い学問に触れた上で学びを深められるように、多様な教科・科目の履修を実現する。主体的な学びを支援するために、生徒の自主的な学習時間・活動時間を確保する。

【探究と教養】

自らが課題を発見し探究する学校設定科目「研究Ⅰ・Ⅱ」を1・2年次に設定し、自発的に「探究」する活動を重視する。さらに、3年次に深く考える力と幅広い教養をつなぐ「研究Ⅲ」を設定し、未来社会のあり方を考え、自分なりの世界観・人間観・倫理観・科学観などに高めるための活動を行う。

「教養」を「断片的な知識・経験をつなぎ、高校で習得する知の全体像を俯瞰的に把握する力」と定義し、教養を育てる教科横断的な視点を重視した活動を行う。

【開かれた学校】

校外の諸機関と連携し、大学での学問や進路につながるより高度な専門的プログラムを設定する。学校設定教科「研究」・進路関係行事・その他の課外活動において、大学・研究機関・企業・同窓会から協力を得るための「藤島プラットフォーム」を整備・活用する。

【グローバル感覚と言語能力】

地球的規模の問題群に取り組むために必要な地球感覚とコミュニケーション能力を育成する。

〔各教科の努力目標〕

① 国 語 科

1 生徒の学力の充実

古今の文章や表現に親しむことを通して、的確な読解力、自らの思索に基づいた的確な表現力を養うとともに、柔軟な思考力および豊かな心の世界や人間性を育てる。

2 指導方法の研究と実践

ア 各学年担当者会などでの、教材の精選と指導の効率化の研究と実践。

イ 主体的に読み、考え、話し、学ぶ姿勢を育てる指導方法の研究と実践。

ウ 基礎的事項である「漢字」「古文単語」「古典文法」「漢文句法」等の反復学習と定着を図る指導方法の研究と実践。

エ 書くことを習慣化させ、的確な表現力を養成する指導方法の研究と実践。

オ 読書を習慣づける指導の研究と実践。

② 地理歴史科・公民科

1 学力の充実

生徒の基礎学力の充実を図り、理解力・思考力を高め、国際的視野に立った総合的判断力を養うことによって、生徒一人ひとりに、生涯にわたる自己学習力をはぐくむ。

2 指導方法の研究

学習の効果をより高めるため、生徒の学習能力の実態を把握し、教育機器の活用など実態に即した指導方法を工夫し、研究を推進する。

3 教育課程の研究

「地歴科」「公民科」の趣旨をふまえ、両教科の関連を通して、良識ある主権者の育成にむけて、教育課程の研究と実践をすすめる。

③ 数 学 科

1 基礎学力の充実と自主的な学習態度の育成

ア 数学における基本的な概念・原理・法則などの理解徹底に努め、個々の生徒に応じた指導を行う。

イ 数学への興味・関心を高め、自主的かつ積極的に学習に取り組む態度を養う。

2 創造力・応用力の養成

様々な分野の関連性に目を向け、新しい概念を導き出し、さらに、総合的・発展的に考察する能力と態度を養う。

④ 理 科

1 探究心の確立と創造力の育成

自然を探究する真摯な態度を養い、創造力の育成を図る。

2 実験・観察と環境・エネルギー教育の重視

実験・観察を通して、自然現象についての総合的な考え方を育成し、環境・エネルギー問題を含めた人間と自然の関わりについて考察する態度と能力を養う。

3 学力の向上

教科に対する関心を高め、自発的に学習する意欲を起こさせる指導方法を工夫し、基礎学力の向上に努める。

4 施設・設備の充実と教育機器の活用

施設・設備の充実と改善を図り、教材の開発と製作に努める。また、それらを工夫して指導効果を高める授業研究を一層強化する。

⑤ 英 語 科

1 グローバルな視野の育成

英語学習を通して、グローバルな視野を持たせ、言語と文化についての理解を深めさせる。

2 基礎学力の充実

生徒の学力や学習態度を把握し、使用教材を精選して、基本的学習事項の定着を図る。特に第1学年では、基本文型、辞書の活用、発音記号の読み方、基本語彙、構文の理解等の知識習得に重点を置く。

3 読解力と表現力の育成

適切な読解力の養成が基本であるとの認識に立ち、優れた教材の読解を通して英文の正しい理解力と語彙力を養うとともに、自分の考えを論理的に英語で表現するコミュニケーション能力の育成を図り、効果的に表現できるようにする。

⑥ 保健体育科

1 計画的に運動するための実践力の育成と体力の向上

- ア 心と体を一体としてとらえ、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。
- イ 自己の興味・関心により、運動を選択し、技術の向上や体力の増進を図る。
- ウ 運動の特性により深く触れ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 心身の健康の保持増進を図るための資質や能力の育成

- ア 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理した上で改善していく資質や能力を育てる。
- イ 健康に関して適切な意志決定や行動選択および健康的な社会環境づくりについての重要性を理解する。

⑦ 芸術科

<全体>

芸術の諸能力を伸長し、芸術文化についての理解を深め創造性と豊かな情操の育成を図る。

<各科>

1 音楽科

音楽の諸活動を通して創造的な表現と鑑賞の能力を高め、音楽を愛好する心情を養う。

- ア アンサンブル活動や創作活動を通して、創造的な表現能力を高め、音楽を愛好する心情を養う。
- イ 創造的な鑑賞能力を高め、音楽文化についての理解を深める。

2 美術科

美術の諸活動を通して創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術を愛好する心情を養う。

- ア 幅広い創造活動を通して美的体験を豊かに、主体的に創造する能力を高める。
- イ 美術館での鑑賞などを通して鑑賞能力を高め、美術文化についての理解を深める。

3 書道科

書道の諸活動を通して表現と鑑賞の能力を高め、書を愛好する心情を養う。

- ア 用筆・運筆の様々な技法を習得し、意図に基づいた表現の能力を高める。
- イ 名筆や古典等の鑑賞を通して、書の伝統や文化についての理解を深める。

⑧ 家庭科

○ 生活をよりよくする主体（生活主体）となるために必要な実践力の育成

- ア 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能の習得をめざす。（知識・技能）
- イ 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて倫理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力等）
- ウ 様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

⑨ 学校設定教科「研究」

1 課題研究による主体的、創造的に取り組む態度の育成

科学に対する高い興味・関心を動機付けとして、生徒自らが問題を発見し、その問題解決への自発的、積極的な行動ができるような体験を積み重ね、将来あらゆる場面で正しく活用できる科学技術リテラシーを育成する。

2 コミュニケーション能力の育成

科学技術を多様な角度から検討し合うコミュニティを学校全体に作りあげ、コミュニケーション能力に優れた科学技術に深い理解をもつ人材を育成する。

3 知の全体像を俯瞰的に把握する「教養」を育てる。

高校で得る断片的な知識・経験を「統合」し、知のネットワークとしての「教養」を形成し、世界観、人間観、倫理観、科学観など自分なりの「俯瞰的な全体像」を持った人間を育成する。

4 知識基盤社会で必要となる資質・能力の育成

コンピューターや情報通信ネットワークなどを利用し、情報を主体的に活用するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、プライバシーや著作権等の保護・管理にも関心を払う態度を育成する。

〔各学年の努力目標〕

① 第 1 学年

- 1 基本的な生活習慣を身に付け、責任と義務を重んじ、豊かな教養を身につけた人格の基礎の確立を支援する。
- 2 授業を学習活動の中心に据え、その中で自らの課題を見つけ、自主的かつ計画的に解決しようとする姿勢の育成と、個性や能力に応じた学力の伸長を支援する。
- 3 読書に親しんだり友情を深めたりすることによる、総合的な自己理解を促す。2年次の文理選択に向けて、職業観や進路意識を高めるような働きかけを行う。

② 第 2 学年

- 1 規律ある生活習慣の定着、集団生活を通しての好ましい人間関係の構築、責任と義務を重んずる礼儀正しく自立した人格の育成を図り、特別活動や部活動において中堅学年として活躍できるよう支援する。
- 2 授業を軸として、予習・復習を中心とした家庭学習習慣を養成しながら、学習内容の充実と学習時間の確保ができるように支援する。また、面談をはじめとした細やかな個人指導を通して、個性や能力に応じた学力の伸長を支援する。
- 3 自分の世界を広げ自らを高めるとともに、他者に対してできることは何かを意識する態度を育成し、十分な自己理解に基づいた進路意識の一層の高揚を支援する。

③ 第 3 学年

- 1 規律ある生活の中で、自ら前向きに困難に立ち向かう心を育て、互いに支え合う人間関係とよりよい学習環境をクラス内外に築かせるとともに、最高学年として部活動や生徒会活動において活躍できるように支援する。
- 2 第1・第2学年と積み上げてきた職業観・大学観の上に立って、高い理想を掲げ、豊かな教養を身につけつつ、自分にふさわしい進路を自立的に決定することを目指し、進路意識高揚のはたらきかけを行う。
- 3 希望する進路の実現に向けて、毎日の授業に主体的に取り組むことを基本に、自主的・意欲的・計画的・持続的な学習に取り組ませ、面談など細やかな個人指導を通して個性・能力に応じた学力の伸長を支援する。

3 教 職 員 数

(令和5年4月1日現在)

	校 長	教 頭	事 務 長	国 語	地 歴・ 公 民	数 学	理 科	英 語	保 健 体 育	芸 術			家 庭	養 護	実 習 助 手	非 常 勤 講 師	英 語 指 導 助 手	主 任	主 事	会 計 年 度 任 用 職 員	校 務 員	臨 時 任 用 校 務 員	計	嘱託		茶 花 道 琴 講 師	臨 床 心 理 士	そ の 他 事 務	総 計	
										音 楽	美 術	書 道												校 医	薬 劑 師					
男	1	1	1	5	9	10	7	5	5						4	1		1		1	1	1	52	4	1					57
女				5	2	1	4	6	1	1	1	1	1	2	3	1	1		1				32			3	1	3	39	
計	1	1	1	10	11	11	11	11	6	1	1	1	1	1	2	7	2	1	1	1	1	1	84	4	1	3	1	3	96	

令和5年度 第1・2学年 3年間教育課程

教科	科目	学科・類型 学年 標準単位	文 系				理 系			
			1 年	2 年	3 年	計	1 年	2 年	3 年	計
国語	現代の国語	2	2			2	2		2	
	言語文化	2	3			3	3		3	
	倫理	4		2	2	4		1	2	
	文学	4		2	2	4		2	1	
	古典探	4		2	2	4		2	2	
地理歴史	地理総合	2	2			2	2		2	
	地理探	3				0・3			0・4	
	歴史総合	2	2	3	3	2	2	2	2	
	日本史探	3				0・3			0・4	
	世界史探	3				0・3			0・4	
	□地理発	2				0・2				
	□日本史発	2			2	2				
□世界史発	2				0・2					
公民	公倫	2		2		2		2	2	
	政治・経	2				2				
	政治・経	2				0・2				
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3		3	
	数学Ⅱ	4	1	3		4	1	3	4	
	数学Ⅲ	3						1	4	
	数学A	2	1		①	1・2	1		1	
	数学B	2		2		2		1	1	
	数学C	2		1	②	1・3		1	1	
	□数学考	3			③	0・3				
理科	物理基礎	2	2			2	2		2	
	化学基礎	4				0・2		2		
	化学基礎	2						2	3	
	生物基礎	2	2			2	2		4	
	生物基礎	4							4	
	地理基礎	2				0・2				
	□理科考	4			4	4				
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	
	保健	2	1	1		2	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2			0・2	
	音楽Ⅱ	2				0・3				
	美術Ⅰ	2	2			0・2	2		0・2	
	美術Ⅱ	2			③	0・3				
	書道Ⅰ	2				0・2			0・2	
	書道Ⅱ	2				0・3				
	□音楽創	3				0・3				
□美術創	3			③	0・3					
□書道創	3				0・3					
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4			4	4		4	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4		4	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	2		2	
	論理・表現Ⅱ	2		2		2		2	2	
論理・表現Ⅲ	2			2	2			2		
家庭	家庭基礎	2	2			2	2		2	
情報	フードデザイン	2~6			③	0・3				
	情報Ⅰ	2			1	1			1	
○研究	情報Ⅱ	2						1	1	
	○研究Ⅰ	2	2			2	2		2	
	○研究ⅡS	2						2	0・2	
	○研究ⅡA	2							0・2	
	○研究ⅡB	2		2		2				
○研究Ⅲ	1			1	1			1		
専門科目計		0	0	0・3	0・3	0	0	0	0	
小計		33	33	33	99	33	33	33	99	
総合的な探究の時間	3~6	0	0	0	0	0	0	0	0	
ホームルーム活動		1	1	1	3	1	1	1	3	
自立活動		※	※	※		※	※	※		
合計		34	34	34	102	34	34	34	102	

備 考

- はSSHに係る学校設定教科・科目
- は学校設定科目
- 「総合的な探究の時間」については、4単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）1単位と「研究ⅡB」（2年）2単位と「研究Ⅲ」（3年）1単位で代替する。
- 「情報Ⅰ」については、1単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）1単位で代替するとともに、「研究ⅡB」「研究Ⅲ」において継続的に内容を取り上げ、3年次に1単位履修する。
- 1年の「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」履修後に履修する。
- 3年で、数学・芸術・家庭で6単位を履修することになるが、その履修のパターンは次の4通りに限る。
 - イ) 数学A①単位+数学C②単位+数学考究3単位
 - ロ) 芸術Ⅱ③単位+数学考究3単位
 - ハ) フードデザイン③単位+数学考究3単位
 - ニ) 芸術Ⅱ③単位+芸術創造3単位
- 上記の「芸術Ⅱ」および「芸術創造」については、1年で履修した科目と同じ科目の「Ⅱ」および「創造」を履修する。
- 2年の地理歴史の選択では、世界史探究、日本史探究、地理探究を合計6単位選択することはできない。異なる2つの科目を履修する。
- 3年の地理歴史公民の選択では、世界史発展、日本史発展、地理発展を合計4単位選択することはできない。異なる2つの科目を履修する。

- はSSHに係る学校設定教科・科目
- 「総合的な探究の時間」については、4単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）1単位、「研究ⅡS」「研究ⅡA」（2年）2単位、「研究Ⅲ」（3年）1単位で代替する。
- 「情報Ⅰ」については、1単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）1単位で代替するとともに、「研究ⅡS」「研究ⅡA」「研究Ⅲ」において継続的に内容を取り上げ、3年次に1単位履修する。
- 1年の「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」履修後に履修する。
- 2年の「数学Ⅲ」は「数学Ⅱ」履修後、「化学」「化学基礎」履修後に履修する。
- 3年の理科については、2年で選択履修した「物理」または「生物」のいずれかを継続履修する。
- 3年の地理歴史の「探究」科目では、2年で選択履修した「探究」科目を継続履修する。

令和5年度 第3学年 3か年間教育課程

教科	科 目	標準 単位数	文 系				理 系			
			1 年	2 年	3 年	計	1 年	2 年	3 年	計
国 語	国語総合	4	6			6	6			6
	現代文A	3								
	現代文B	2								
	古典A	4		3	3	6		2	2	4
地理歴史	古典B	2								
	世界史A	4								
	世界史B	2		4		4・7				0・2
	日本史A	2								0・6
公民	日本史B	4								0・2
	地理A	2								0・6
	地理B	4		4		0・4・7				0・2
	現代社会	2	2			2	2			2
数 学	倫理	2								
	政治・経済	2								
	数学Ⅰ	2	2			0・3				
	数学Ⅱ	3	3			3	3			3
	数学Ⅲ	4	2	3		5・8	2	2		4
	数学ⅢA	5							6	8
理 科	数学ⅢB	2	2			2・4	2			2
	数学活用	2				3		3		3
	科学と人間生活	2								
	物理基礎	2	2			2・4	2			2
	物理	4								2
	化学基礎	2				0・4		2		0・7
	化学	2						2		2
	生物基礎	4						3	3	4
	生物	2	2	2		2・4	2			4
	地学基礎	2				0・4				2
保 育	地学	4								0・7
	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7
	音楽Ⅰ	2	1	1		2	1	1		2
	音楽Ⅱ	2								
	美術Ⅰ	2								
	美術Ⅱ	2	2			0・2	2			0・2
	工芸Ⅰ	2								
	工芸Ⅱ	2								
	書道Ⅰ	2								
	書道Ⅱ	2				0・2				0・2
外 国 語	音楽探究	3				0・3				
	美術探究	3				0・3				
	書道探究	3				0・3				
	コミュニケーション英語基礎	2								
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4			4	4			4
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		5		5		4		4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				5			4	4
	英語表現Ⅰ	2	2			2	2			2
	英語表現Ⅱ	4		2		4		2	2	4
	英語会話	2								
家 庭 専 門	家庭基礎	2	2			2	2			2
	家庭総合	4								
	生活デザイン	4								
	フードデザイン	2~6				0・②・⑤	0・2・5			
情 報	社会と情報の科学	2								
	研究Ⅰ	2	2			2	2			2
	研究ⅡS	2						②		0・2
	研究ⅡA	1						①		0・1
	研究ⅡB	1		1		1				1
備 考	研究Ⅲ	1				1			1	1
	専門科目計		0	0	0・2・5	0・2・5	0	0	0	0
	小ホール活動		34	33	34	101	34	33・34	34	101・102
	総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3
合 計	総合的な探究の時間		0	1	0	1	0	①・0	0	1・0
	自立活動		※	※	※	※	※	※	※	※
	合計		35	35	35	105	35	35	35	105

○はSSHに係る学校設定教科・科目
□は学校設定科目
「総合的な探究の時間」については、2単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）と「研究Ⅲ」（3年）の各1単位で代替する。
「情報」については、「社会と情報」2単位相当分を教科「研究Ⅰ」（1年）「研究ⅡB」（2年）の各1単位で代替する。
1年の「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰ」履修後に履修する。
3年の理科については、2年で選択履修した「化学基礎」、「地学基礎」のいずれかを継続履修する。また、「物理基礎」、「生物基礎」のいずれかを選択履修する。
3年で、数学・芸術・家庭で5単位を履修することになるが、その履修のパターンは次の5通りに限る。
イ) 数学Ⅱ③単位 + 数学Ⅱ②単位
ロ) 数学Ⅱ③単位 + 芸術Ⅱ②単位
ハ) 数学Ⅱ③単位 + フードデザイン②単位
ニ) 芸術Ⅱ②単位 + 芸術探究③単位
ホ) フードデザイン⑤単位
上記の「芸術Ⅱ」および「芸術探究」については、1年で履修した科目と同じ科目の、「Ⅱ」および「探究」（音楽探究・美術探究・書道探究のうち1科目）を履修する。
3年の地理歴史公民の選択では、世界史B、日本史B、地理Bを合計6単位選択することはできない。異なる2つの科目を履修する。

○はSSHに係る学校設定教科・科目
「総合的な探究の時間」については、2年で研究ⅡS(②)を選択した場合、3単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）「研究Ⅲ」（3年）「研究ⅡS」（2年）「研究Ⅲ」（3年）の各1単位で代替する。2年で研究ⅡA(①)を選択した場合、2単位相当分を「研究Ⅰ」（1年）「研究Ⅲ」（3年）の各1単位で代替する。
「情報」については「社会と情報」2単位相当分を教科「研究Ⅰ」（1年）「研究ⅡS・ⅡA」（2年）の各1単位で代替する。
1年の「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰ」履修後に履修する。
2年の「数学Ⅲ」は「数学Ⅱ」履修後、「化学」は「化学基礎」履修後に履修する。
3年の理科については、2年で選択履修した「物理」または「生物」のいずれかを継続履修する。
3年の「地理歴史」のB科目では、2年次に選択履修したB科目を3年でも継続履修する。
3年の「地理歴史」のA科目については、2年次に日本史Bまたは地理Bを履修した者は、世界史Aを履修する。2年次に世界史Bを履修した者は、日本史Aまたは地理Aを履修する。

4 校内組織

(1) 校内分掌

部	業 務 内 容		
教 務	総括		
	庶務	文書・調査・統計	
		教具・教材・備品管理	
		生徒異動記録	
	教務	教育実習・研修	
		研究集録	
	教科	教育課題・評価	
		考査・諸テスト	
		時 間 割	
		行事日程・時程	
	科	教科書	
		成績処理・通知表	
	人権・同和教育・道徳教育・主権者教育		
	内規		
学校公開・学校説明会			
情 報	企画・運営・庶務	文書管理	
		予算	
		各種調査	
		情報処理委員会	
		生徒情報委員会	
	情報管理	ホームページ管理(情報発信)	
		写真・ビデオ管理	
		メール管理	
	機器管理	各種データ管理	
		情報機器管理	
校内ネットワーク	C A I教室・サーバ管理		
	校内ネットワーク管理		
	福井県教育クラウド管理		
生 徒 支 援	総括		
	生活指導	容儀指導	
		通学安全	
		校外補導	
	特別教育活動指導	生徒会	生徒会
			生徒代表議会
		委員会指導	ホームルーム
			生活刷新委員会
			体育委員会
		遠部	文化委員会
			L H 委員会
	活動	明新編集委員会	
	庶務	遅刻・早退統計・許可業務	
		生徒必携・写真・拾得物	
生徒支援委員会			
いじめ対策委員会			
進 路 支 援	資	模擬試験	
		県連合模擬試験 校外模擬試験	
	補習・特		
	面接		
	就職		
	卒業生		
	しおり編集		
	総合型・学校推薦型選抜入試		
	小論文		
	共通テスト		
奨学金			
行事			
会計			

部	業 務 内 容		
保 健	企画・運営		
	防火・防災管理		
	保健安全管理	健康管理	
		保健委員会指導	
	安全管理		
	教育相談	教育相談	
	健	環境美化	清掃管理指導・清掃場所割当
			屋外・グラウンド・体育館管理
			ゴミ・空き缶・古紙倉庫管理
			清掃用具管理・購入
ワックスがけ			
清掃用具点検・モップ交換			
清掃委員会指導			
美化プロモーション・リサイクル			
図 書 研 究	企画・運営		
	国際交流・留學生		
	図 書	図書館資料	資料購入希望調査・選定
			発注・受入
			図書・校内資料管理・新着本目録
			諸記録・統計・広報
	書 研 究	生徒支援	読書指導
			図書館利用指導
			図書委員会
		視聴覚	貸出当番
読書界班			
視聴覚		館報「図書」班	
視聴覚室管理	企画運営班		
企 画 研 究 委 員 会	視聴覚機器管理・利用・資料広報	視聴覚室管理	
		施設管理・安全点検	
		カリキュラム開発	
		G	
	校内研修		
	G		
	校外研修		
	G		
	交流・広報		
	G		
庶 務	総括		
	式典		
	P T A		
	明新会		
事 務	庶務		
	厚生管理	購買・新嶺会館(食堂)	
施設管理 歳入・歳出・給与・共済・旅費・就学支援金 諸証明書発行・統計調査・文書の收受発送 学校徴収金会計・団体徴収金会計			

(2) 各種会議等構成員

会 議 等	構 成 員			※()内は人数
運 営 評 議 会	校長・教頭・事務長・各部長(7) 各学年主任(3)・体育科主任・選出委員(40～50代:3、20～30代:4)			
教 育 課 程 審 議 会	校長・教頭・教務部長・生徒支援部長・進路指導部長・企画研究部長・各学年主任(3) 各教科主任(10)・教務部教育課程係および提案者			
学 校 評 価 委 員 会	校長・教頭・事務長・各部長(7)・各学年主任(3)・教務部学校評価係 学校関係者評価 P T A代表			
生 徒 支 援 委 員 会	教頭・生徒支援部長・生徒支援係(2)・各学年主任(3)・各学年代表(3)			
情 報 処 理 委 員 会	各部代表(7)・各学年代表(3)・各教科代表(8)・事務部(1)			
い じ め 対 策 委 員 会	校長・教頭・保健部長・生徒支援部長・生徒支援委員(8) 当該生徒の正副担任・教育相談係(1)・養護教諭			
ハ ラ ス メ ン ト 防 止 対 策 委 員 会	教頭・保健部長・生徒支援部長・教育相談係(1)・養護教諭・選出委員(3)			
特 別 会 計 委 員 会	校長・教頭・事務長・保健部長 選出委員(3)	特別会計監査委員会	選出委員(1)・事務部代表(1)	
行 事 検 討 委 員 会	校長・教頭・事務長・各部長(7)・各学年主任(3)・体育科主任			
留 学 生 審 議 委 員 会	教頭・教務部長・生徒支援部長・図書研究部長・英語科主任・当該学年主任・担任・ 図書研究部国際教育係			
防 火 防 災 委 員 会	校長・教頭・事務長・各部長(7)・各学年主任(3)・理科主任・体育科主任・家庭科主任・ 養護教諭・庶務部防火防災係			
学 校 保 健 安 全 委 員 会	校長・教頭・事務長・各部長(7)・各学年主任(3)・体育科主任・理科主任・家庭科主任・ 養護教諭・庶務部防火防災係・その他			
特 別 認 定 審 議 委 員 会	教頭・教務部長・生徒支援部長・保健部長・養護教諭・教育相談係・学年主任・担任			

※その他に、修学旅行委員会、アルバム委員会、明新会表彰者選考委員会、採択希望教科書調査委員会、衛生委員会、学校指定物品選定委員会等がある。

5 生 徒

(1) 在籍生徒数

(令和5年4月1日現在)

全日 制課程 (普通科)	学年		1 年	2 年	3 年	合 計
	区 分	学 級 数	9	9	10	28
		男	174	197	177	548
		女	166	139	159	464
		合 計	340	336	336	1,012

(2) 出身地区別生徒数

(令和5年4月1日現在)

市・郡・町	1 年	2 年	3 年	合 計
福 井 市	240	236	251	727
永 平 寺 町	8	16	12	36
大 野 市	7	3	3	13
勝 山 市	5	5	5	15
あ わ ら 市	10	5	10	25
坂 井 市	43	40	36	119
鯖 江 市	12	14	11	37
越 前 町	3	0	0	3
越 前 市	9	7	6	22
南 越 前 町	1	0	0	1
敦 賀 市	2	7	2	11
三 方 郡	0	1	0	1
そ の 他	0	2	0	2
総 計	340	336	336	1,012

(出身中学校の所在地による)

(3) 生徒通学状況(延べ数)

通学方法		学 年			全 学 年	
		1 年	2 年	3 年		
鉄 道	J R	金津・丸岡方面	14	13	16	43
		鯖江・武生方面	8	18	15	41
		越 美 北 線	9	6	2	17
	えちぜん 鉄道	三 国 芦 原 線	37	33	33	103
		勝 山 永 平 寺 線	12	22	14	48
	福 井 鉄 道	33	22	23	78	
バ ス	京 福 バ ス	22	13	10	45	
	福 井 鉄 道	0	0	1	1	
自 転 車		216	232	237	685	
徒 歩		42	25	30	97	
そ の 他 (含 む 自 家 用 車)		37	43	49	129	

(4) 自宅・下宿別の通学者数

通 学 者		学 年			全 学 年
		1 年	2 年	3 年	
自 宅		339	336	336	1,011
下 宿		1	0	0	1

6 教 務

〈校 時 表〉

1・2学年（月曜）

登 校	8:25	健康観察
予 鈴	8:35	
第 1 校時	8:40～	9:25
第 2 校時	9:35～	10:20
第 3 校時	10:30～	11:15
第 4 校時	11:25～	12:10
昼 食	12:10～	12:45
予 鈴	12:45	
第 5 校時	12:50～	13:35
第 6 校時	13:45～	14:30
S H	14:30～	14:40

3学年（月曜）

登 校	8:25	健康観察
予 鈴	8:35	
第 1 校時	8:40～	9:25
第 2 校時	9:35～	10:20
第 3 校時	10:30～	11:15
第 4 校時	11:25～	12:10
昼 食	12:10～	12:45
予 鈴	12:45	
第 5 校時	12:50～	13:35
第 6 校時	13:45～	14:30
S H	14:35～	14:45
第 7 校時	14:50～	15:35
S H	15:35～	

全学年（火～金曜）

登 校	8:25	健康観察
予 鈴	8:35	
第 1 校時	8:40～	9:25
第 2 校時	9:35～	10:20
第 3 校時	10:30～	11:15
第 4 校時	11:25～	12:10
昼 食	12:10～	12:45
予 鈴	12:45	
第 5 校時	12:50～	13:35
第 6 校時	13:45～	14:30
第 7 校時	14:40～	15:25
清 掃	15:25～	15:40
S H	15:40～	15:50

〈情 報〉

(1) 企画・運営・庶務

- ① 文書管理
情報関連各種文書の収受、保管および発送、情報関係教職員講座等の案内
- ② 予算
備品購入・設備導入計画の作成と運用
- ③ 各種調査
各種調査と報告
- ④ 情報処理委員会（各部・各教科・各学年から1名の委員選出）
情報システムの整備・利用促進のための研修・ICT教育推進・ホームページ作成
- ⑤ 生徒情報委員会指導（生徒情報委員会を各クラスから2名選出）
CAI教室の利用促進と整備、ソフト・機器活用のための研修、HPづくり

(2) 情報管理

- ① ホームページ管理（情報発信）
藤島高校ホームページの管理・運営
- ② 写真・ビデオ管理
学校行事などの写真撮影とその整備
- ③ メール管理
外部から寄せられる電子メール等への対応、緊急メールシステムの運用・管理
- ④ 各種データ管理
各種データの作成と管理、データの更新、成績処理システムの管理、プログラム開発

(3) 機器管理

- ① 情報機器管理
公的コンピュータなどの情報機器の管理
- ② CAI教室・サーバ管理
CAI教室・サーバコンピュータの管理と整備

(4) 校内ネットワーク

- ① 校内ネットワーク管理
校内ネットワークの整備
- ② 福井県教育クラウド管理
賢者（グループウェア）の管理と利用促進

(5) 視聴覚

視聴覚教育の重要性を踏まえ、教科指導・ホームルーム・部活動などにおいて視聴覚機器および教材を積極的に活用できるよう、資料を収録し、必要に応じて授業やホームルーム活動・部活動などの使用に供する。

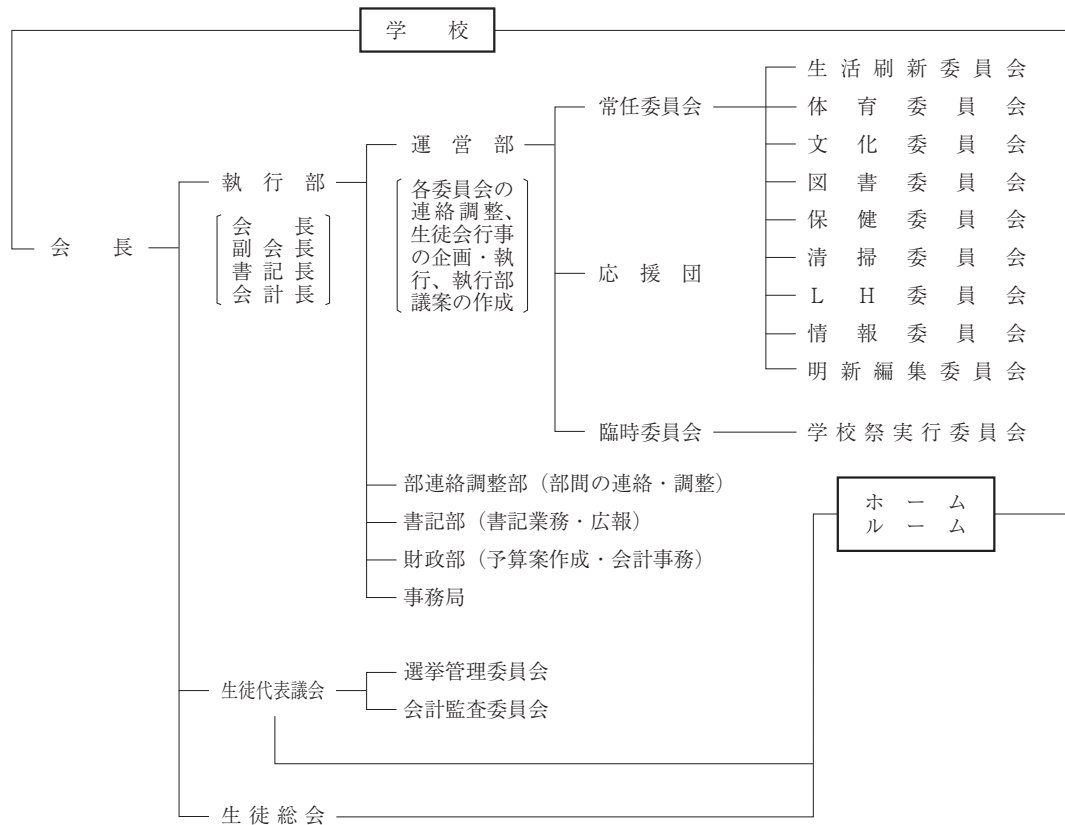
a 施 設

- ① 視聴覚教室 1
- ② 視聴覚準備室 1
- ③ 放送室 1
- ④ LL教室 1
- ⑤ 多目的室 1

b プロジェクター各教室に設置

7 生徒支援

(1) 生徒会組織



(2) 部活動一覧

文 化 部					運 動 部			
1	茶 華 道	13	箏 曲	1	陸 上	13	女子バドミントン	
2	新 聞	14	SSH研究クラブ数学・情報	2	男子バスケットボール	14	柔 道 (休 部)	
3	合 唱	15	SSH研究クラブ生物	3	女子バスケットボール	15	剣 道	
4	美 術	16	SSH研究クラブ化学	4	男子バレーボール	16	弓 道	
5	書 道	17	SSH研究クラブ物理・地学	5	女子バレーボール	17	男 子 テ ニ ス	
6	演 劇	18	SSH研究クラブ国際教養	6	卓 球	18	女 子 テ ニ ス	
7	文芸・漫画研究	19	囲 碁	7	男子ソフトテニス	19	山 岳	
8	吹 奏 楽	20	将 棋	8	女子ソフトテニス	20	野 球	
9	E S S	21	ジャグリング	9	男子ハンドボール			
10	放 送			10	女子ハンドボール			
11	J R C			11	サ ッ カ ー			
12	弦 楽			12	男子バドミントン			

8 進路支援

(1) 模擬試験・オリエンテーション計画

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年			(一斉) ○	県1(記)	(一斉)		外(記)	県2(記)		(一斉) 県3(記) ○	外(記)	
2年	(課題) 外(記)		(一斉) ○	県1(記)	(一斉)		外(記)	県2(記)		(一斉) 県3(記) ○	外(記)(マ)	
3年	(課題) 県1/外(記)	外(記)	(一斉) 県2(マ) ○	県3(記)	外(マ)	外(記) 県4(マ) ○	県5(記) 外(記) 県6(マ)	外(マ)	外(マ)			

(注) 課題は課題テスト 実判は実力判定試験 県は県連合模試 外は外部模試

(マ)はマーク式 (記)は記述式 ○はオリエンテーション実施月

※(課題)(一斉)は教務部等担当のテスト

(2) 最近の主な大学合格者数

(人)

国立大学	3年3月	4年3月	5年3月	公立大学	3年3月	4年3月	5年3月
北海道大	9	5	3	東京都立大	2	3	1
東北大	4		4	福井県立大	4	3	5
筑波大	4	6	5	岐阜薬科大			2
お茶の水女子大		1	2	名古屋市立大	3	1	2
東京大	14	8	9	京都府立大	1	1	1
東京外大	1			大阪市立大	7		
東京工業大	2	2	3	大阪府立大	3		
一橋大	5	1		大阪公立大学		12	9
横浜国立大	5	3	4	その他	12	11	21
新潟大	3	2	3	合計	32	31	41
富山大	6	8	11	私立大学	3年3月	4年3月	5年3月
金沢大	39	28	33	青山学院大	3	7	7
福井大(教・国際)	14	7	15	慶應義塾大	19	13	11
福井大(工)	9	15	16	中央大	18	9	19
福井大(医)	17	9	12	東京理科大	14	19	14
福井大(看)	2	3	6	法政大	2	7	3
静岡大	8	4	1	明治大	10	12	25
名古屋大	16	6	8	立教大	3	8	9
名古屋工業大	7	4		早稲田大	14	16	22
京都大	14	19	15	京都女子大	24	15	22
大阪大	27	11	29	同志社大	72	58	78
神戸大	12	18	18	同志社女子大	9	10	11
奈良女子大	5	6	3	立命館大	160	124	160
広島大	12	3	10	関西大	53	23	40
九州大	2	1	4	関西学院大	15	31	32
その他	30	37	40	その他	282	256	282
合計	267	207	254	合計	698	608	735

(卒業生数) (337) (322) (344)

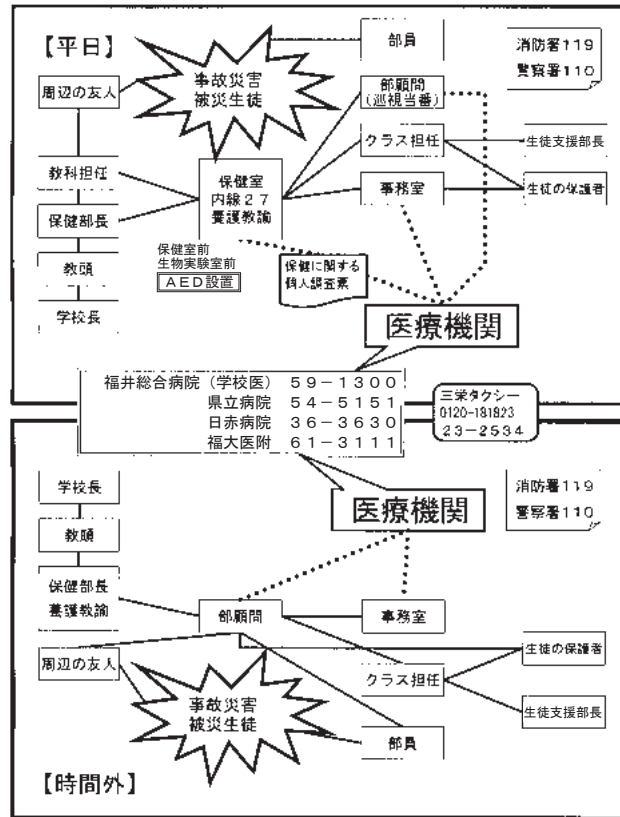
9 保 健

(1) 保健活動

① 健康管理

定期健康診断・健康調査・各種環境検査・健康相談・健康講座・講演会・季節毎の保健指導など

② 藤島高校救急体制



①誰が ②いつ ③どこで ④どのようにして ⑤どうなったか

③ 安全管理

校内安全点検 (各学期毎)・校舎外安全点検・職員救急法講習会など

④ 教育相談

ア 教育相談担当者と施設

専任 3 名 (保健部)・養護教諭 1 名・各学年代表 3 名、相談室 1・面談室 5

イ 活動

日常の相談活動、心理検査 (Q-U)・意識調査、スクールカウンセラー面談、リラクゼーション講座

(2) 環境美化

① 清掃活動

毎日の清掃・各学期毎の大掃除・ワックスがけ・清掃用具点検など

② ゴミの分別とリサイクル

燃やせるゴミ・燃やせないゴミの分別と資源ゴミ (古紙・空き缶・ペットボトル) のリサイクル

(3) 防火・防災に関する事項

① 防火・防災年間計画

月 日	行 事	備 考
各学期 1 回	防火防災一斉点検	
令和 4 年 4 月 15 日 (金)	第 1 回防火防災委員会	諸事項について 行事予定・組織・その他 各クラス S H にて 避難訓練について
4 月 27 日 (水)	職員会議連絡	
5 月	自宅での避難場所の確認	
6 月 28 日 (火)	職員会議連絡	
7 月 11 日 (月)	避難訓練 (地震)	
10 月 11 日 (火)	第 2 回防火防災委員会	ストーブの取扱について ストーブについて 11/22 (火) ストーブ試運転
10 月 27 日 (木)	職員会議連絡	
11 月 18 日 (金)	ストーブ搬入	
12 月	防火防災注意喚起月間	

教科指導 ・物理基礎「放射線及び原子力の利用と安全性の問題」1 年次に 2 時間
・保健「応急手当の意義とその基本」「心肺蘇生法」「日常的な応急手当」1 年次に 3 時間

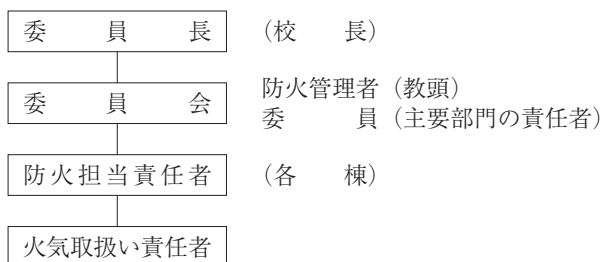
② 防火・防災委員会

委員長：校長

委員：教頭、事務長、庶務部長、教務部長、生徒支援部長、進路支援部長、保健部長、図書・研究部長
各学年主任、理科主任、体育科主任、家庭科主任、養護教諭、庶務部防火防災係

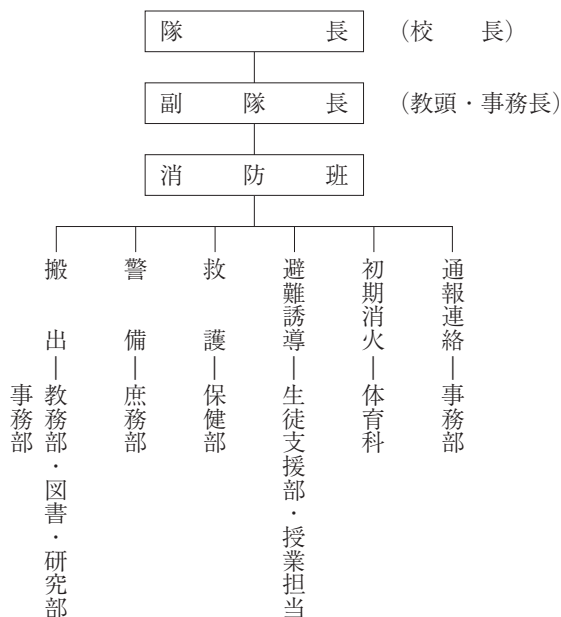
③ 防火・防災組織

○管理組織



職員室及び準備室—別に定められた教職員
普通教室—学級担任
特別教室—関係教科主任
部室—生徒支援部担当教職員・部顧問
その他の特別教室—別に定められた教職員

○自衛組織



10 図書・研究

〈図書館〉

(1) 図書・研究部 (図書班) 担当教諭 3 名、学校司書 1 名、生徒図書委員 56 名によって運営する。

(2) 独立図書館 総延面積 (431.82㎡)

収容人員 72名 閲覧室 177.1㎡ 司書室 79.2㎡ 書庫 89.1㎡ 資料室 79.1㎡ その他 7.32㎡

① 閲覧：開架式

② 貸出：1 回 2 冊以内 貸出期間 15日間

(3) 資料

① 選択：全国学校図書館協議会選定図書、その他、各教科図書委員教諭・生徒委員によって協議決定する。

② 分類：日本十進分類法 (NDC)

③ 蔵書：蔵書総数 46,096 冊 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

生徒 1 名当たり蔵書数 45 冊 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

(4) 蔵書構成

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	絵本	DVD	雑誌	合計
冊数	4,034	2,304	5,326	6,637	5,307	1,850	603	3,735	2,187	13,855	57	191	10	46,096
百分化	16	4	11	12	10	3	1	8	5	30				100
基準百分化	8	5	13	10	15	5	5	7	7	25				100

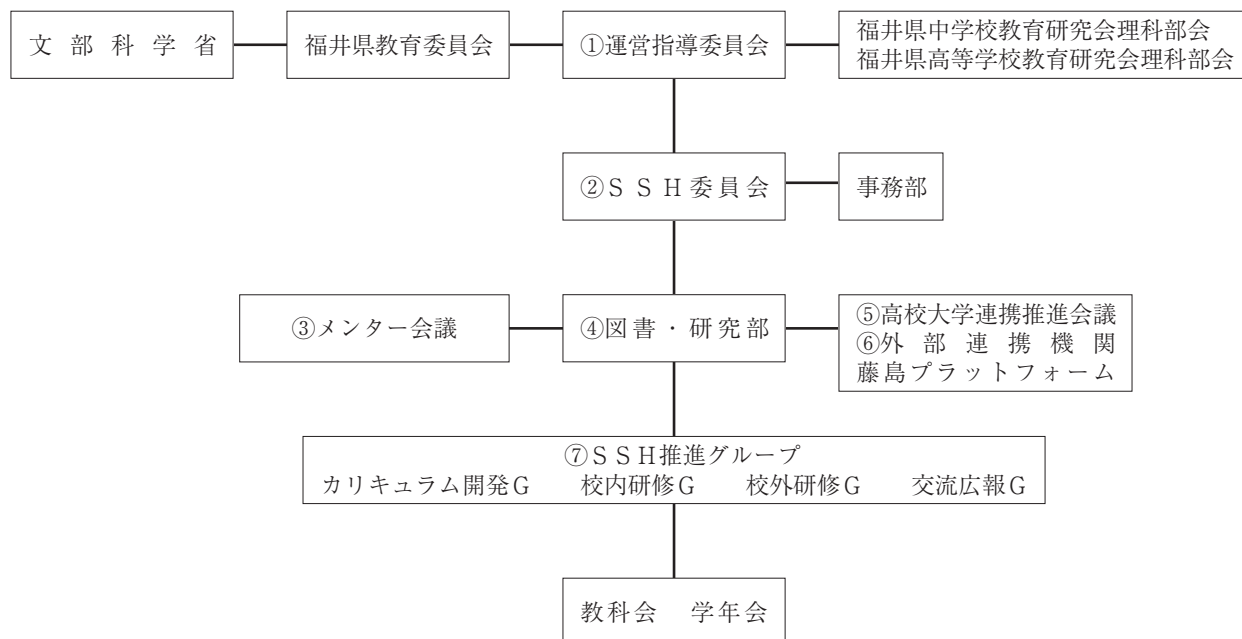
① 新聞 (4 種)

朝日、福井、読売、ジャパントイムズアルファ

② 雑誌 (21 種)

文芸春秋、大学への数学、健康教室、学校図書館、芸術新潮、ニュートン、栄養と料理、スクリーン、蛍雪時代、AERA、ニューズウィーク (日本版)、新聞ダイジェスト、墨、ナンバー、月刊 Piano、ダ・ヴィンチ、日経エンターテインメント、日経ソフトウェア、月刊ニュータイプ、世界、Location Japan

〈スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究組織図〉



①運営指導委員会

研究のねらい、内容、方法、評価等、本校SSHの取組において、連携機関の中心となる福井大学をはじめとする地元大学及び、地元企業、福井県内中学校理科教育研究会等、それぞれの立場から本校のSSHの進め方に対する指導・助言を受ける。

②SSH委員会

SSH研究開発の全体を総括する組織。校長・教頭・各部長・学年主任・図書研究部員で構成し、全校的な研究開発を進めていく。

③メンター会議

大学教員、高校及び中学校教員に依頼し、教科「研究」に対する指導、助言を行う。

④図書・研究部

SSH研究開発全般のマネジメントを中心的に担う組織。SSH推進グループへの原案提示や事業の企画調整、福井県教育委員会・文部科学省との渉外業務、備品管理や予算の執行にあたる。

⑤高校大学連携推進会議

大学教員に依頼し、学校設定科目について指導・助言するとともに、高大連携のコーディネーターとなる。

⑥外部連携機関

SSH事業で協力支援を受ける外部連携機関の大学、研究機関の研究者からなり、SSH事業の取組に対する評価を検討し、事業全体に提言を行う。

⑦SSH推進グループ

SSH事業の実践組織として、各事業の研究内容、研究方法、評価等について、大学、研究機関、企業、行政機関等と協働して計画立案し実践を進める。

カリキュラム開発G	学校指定科目の計画・実施・評価、テキスト制作・課題研究の指導・引率高大連携の調整
校内研修G	講演会・招聘講座等の企画・調整・実施
校外研修G	大学・研究所および企業研修の企画・調整・実施
交流広報G	研究開発報告会の計画・調整及び運営、事業報告書作成

※藤島プラットフォーム

県内の大学・研究機関、企業・地域行政、本校の卒業生にネットワークを拡充し、校内指導体制の充実および共同で教科「研究」のプログラム開発・改善を図る。

11 庶 務

(1) P T A

令和5年度における保護者の負担額は次のとおり。

P T A 会費年額 3,600円
教育振興費年額 7,200円

(2) 厚生管理

① 購 買

ア 購買室

4号館一階の廊下に沿う一室 約66㎡

イ 運 営

運営委員会（校長、教頭、庶務部長、事務長、管理主任）のもとに管理主任が管理・運営を担当し、専任の事務員（1名）が実務に従事

ウ 営業内容

各種文具販売を主とし、その他に、シューズ・トレパン・トレシャツ・制服等の斡旋販売
食堂営業、パン販売は業者に委託

② 学校指定物品に係る事務処理

学校指定物品選定委員会、業者選定委員会の開催

(3) 新嶺会館

藤島高校創立150周年を記念して、平成18年に再建された施設である。

生徒会諸活動、部活動、学年・学級等の活動の場として使用し、教職員の会合、同窓会等の研修にも利用できる。

（原則として一般には開放しない）

① 会館の構造（鉄筋コンクリート3階建）

- a 1階（464.64㎡）食堂（210席）、厨房
- b 2階（510.62㎡）自習室（154席）、職員室
- c 3階（466.04㎡）大講義室（教室型160席、集会型407席）、展示室

② 会館の運営

別途管理要領による。なお、食堂は経営を食品業者に委託する。

(4) 同窓会（明新会）

本校同窓会は一般社団法人明新会と称し、母校の教育を助成し、会員への連絡、研修を行い、会員相互の啓発を図るとともに、母校の発展を支援し、もって社会の教育、文化の発展に寄与することを目的としている。

法人の構成員

普通会員 旧福井県立福井中学校、旧福井県立福井高等女学校、旧福井県立第一高等学校及びこれらの併設中学校並びに福井県立藤島高等学校それぞれの卒業生及びこれらの準ずる者のうち、この法人の目的、事業に賛同して入会した個人

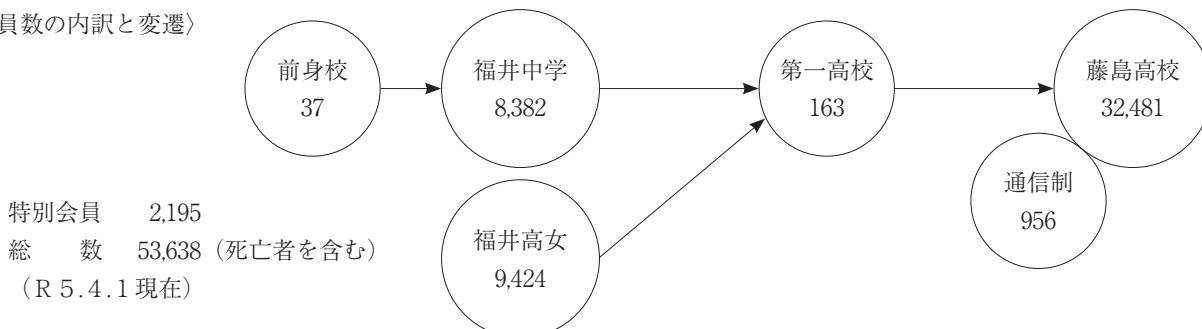
特別会員 前項に記載の各学校の教職員又は元職員の中から理事会において推薦された個人

普通会員は入会金及び会費（継続会費5年毎）を納入しなければならない。

本法人は、理事長、副理事長、理事、監事、代議員を置く。

○明新会支部 東京・近畿・金沢・中京・福井県庁・福井市役所の各支部

〈会員数の内訳と変遷〉



12 年間行事予定

月	主要行事	教務部	生徒支援部	進路支援部
4	入学式 新任式、始業式	各部打合せ会・学年会 1年オリエンテーション 2年課題テスト 3年課題テスト 追認考査 教育課程審議会 情報機器・システムの整備 ホームページ更新	写真撮影 部顧問部長連絡会 部登録 各種委員会 情報モラル講習会	3年県模試・外部模試 2年記述模試
5	P T A 総会	中間考査 教育課程審議会 教育実習 情報処理委員会 ホームページ更新	遠足 生徒総会	3年進路合同会議
6	春季高校総体 新体力テスト 北信越総体	一斉テスト 教育課程審議会 授業公開週間 ホームページ更新	合唱コンクール	1・2・3年進路オリエンテーション 3年県模試
7	終業式 全国総体 全国総文 学校公開	転入学試験 保護者懇談会 期末考査 ホームページ更新	3年球技大会 第1回学校祭実行委員会	1・2・3年県模試 1年キャリア教育講座 3年午後特講
8	県民スポーツ祭 始業式 学校祭	2年一斉テスト 1年一斉テスト ホームページ更新	第2回学校祭実行委員会 生徒会後期役員選挙公示 学校祭	
9		各部打合せ会 教育課程審議会 ホームページ更新	生徒会立会演説会 各種委員会	3年記述模試 3年進路オリエンテーション 3年県模試
10	2年修学旅行	中間考査 教育課程審議会 情報処理委員会 ホームページ更新	生徒総会	3年県模試(記・マ) 進路研修会 1・2・3年記述模試 2年学問発見講座
11	新人大会	授業公開週間 ホームページ更新	薬物乱用防止講習会	1・2年県模試 3年共通テストプレ
12	終業式	期末考査 転入学試験 保護者懇談会 ホームページ更新	2年球技大会 1年球技大会	3年進路合同会議
1	始業式 大学入試共通テスト	1年一斉テスト 2年一斉テスト 各部打合せ会 ホームページ更新		3年激励会 大学入学共通テスト 3年前期特講 1・2年県模試 1・2年進路オリエンテーション
2	S S H 2年課題研究発表会 入学者選抜学力検査	ホームページ更新	生徒会前期役員選挙公示	1・2年記述模試 国公立大学2次試験(前期) 3年後期特講
3	卒業式 合格者登校日 終業式 離任式	転入学試験 教科書販売 1・2年学年末考査 ホームページ更新 校内ネットワーク体制の整備	2年球技大会 1年球技大会 生徒会立会演説会	国公立大学2次試験(中・後期)

月	保 健 部	図 書 ・ 研 究	庶 務 部	備 考
4	清掃計画発表 大掃除 職員胃検診 心電図検査 身体計測 検尿 内科検診 胸部間接撮影	図書館閉館 1年生図書オリエンテーション サイエンスゼミ	入学式 P T A学級委員紙上選挙 P T A会計監査・P T A役員会 明新会理事会	運営評議会 (月1回) 職員会議 (月1回) 生徒各種委員会 学年会(週1回) 教科会(週1回) 保健安全委員会 各種会議(随時) ハラスメント防止 対策委員会 (年3回)
5	心理検査 体育館ワックスがけ	各部ホームページ担当者会議 「新着図書紹介」発行 図書購入希望調査 (各教科・生徒委員) サイエンスゼミ	P T A学級委員会・P T A常任委員会 明新会報編集委員会 P T A総会 P T A通信編集委員会 ようこそ先輩 P T A街頭交通指導 明新会通常総会	
6	教室ワックスがけ 意識調査 校内安全点検 職員健康診断 歯科検診	「新着図書紹介」発行 図書講演会 理工医セミナー	P T A通信編集委員会 明新会報編集委員会 明新会理事会・代議員総会	
7	職員救急法講習会 大掃除 避難訓練	「新着図書紹介」発行 S S H校内研究発表会 サイエンスダイアログ 朝読書週間 S S H交流会	P T A通信編集委員会 P T A学級委員会・P T A常任委員会 明新会報編集委員会 北信越高P連研究大会 P T A講演会	
8	学校祭後始末	県外研修	明新会報編集委員会 学校指定物品選定委員会 全国高P連研究大会	
9	修学旅行前健康調査 修学旅行前健康相談	図書購入希望調査 (各教科・生徒委員) 館報「図書」発行 「新着図書紹介」発行 校内ビブリオバトル 理工医セミナー	P T A通信編集委員会 P T A街頭交通指導 明新会報編集委員会	
10	廊下ワックスがけ	「新着図書紹介」発行 読書会 読書週間 サイエンスゼミ S S H交流会	P T A通信編集委員会 明新会理事会・代議員総会 明新会報編集委員会 P T A学級委員会	
11	保健部講演会 校内安全点検 心理検査	「新着図書紹介」発行 サイエンスダイアログ	P T A通信編集委員会 明新会報編集委員会	
12	大掃除	「新着図書紹介」発行 朝読書週間 サイエンスゼミ S S H課題研究発表会	P T A通信発行 明新会報編集委員会	
1	清掃区域変更	「新着図書紹介」発行	明新会報編集委員会	
2	校内安全点検 大掃除(学力検査・卒業式) 体育館ワックスがけ	「新着図書紹介」発行	P T A常任委員会	
3	大掃除 モップ交換	館報「図書」発行 図書館閉館 朝読書週間 S S H交流会	卒業式・明新会入会式 明新会報発行 P T A役員選考委員会 新入生物品販売 購買棚卸し	

